

新緑の鷲走ヶ岳へ山菜採り楽しむ

山頂から白山・大笠山・奈良岳を望む（平成30年5月12日）

あしハイキング
クラブ

お父さんの山行き紀行

ishiduka

五月十二日、今年初めての登山参加。今回は七名で石川県白山市の手取川ダム近くにある鷲走ヶ岳（一〇九六m）に登る。鴉ヶ谷大橋を渡り、七時一〇分登山開始。山菜取りを楽しみながら西岸小屋に九時到着。

西岸小屋にリュックを降ろし、空荷で鷲走ヶ岳に向かう。十時に山頂に着き、記念撮影をして、西岸小屋に引き返す。十一時一〇分に小屋に到着。昼食を摂り、十二時に下山開始。十三時五分頃登山口に戻る。

参加者（アイウエオ順）
石塚・岩本夫妻・小泉・津田・伴藤・宮本（7名）

朝六時に北陸自動車道福井インター近くの力ネキ運輸の駐車場で参加者七名が集合。小泉さんのワゴン車に同乗させていただき、六時一〇分頃出発。中部縦貫道で勝山インターを下りて、恐竜博物館横を通って国道一五七号に入る。

北谷でトイレ休憩した後、白山市白峰を経て、鴉ヶ谷大橋を渡って、すぐのトンネル手前左手にある狭い作業道に入る。付近は今が盛りと藤の花が満開だ。



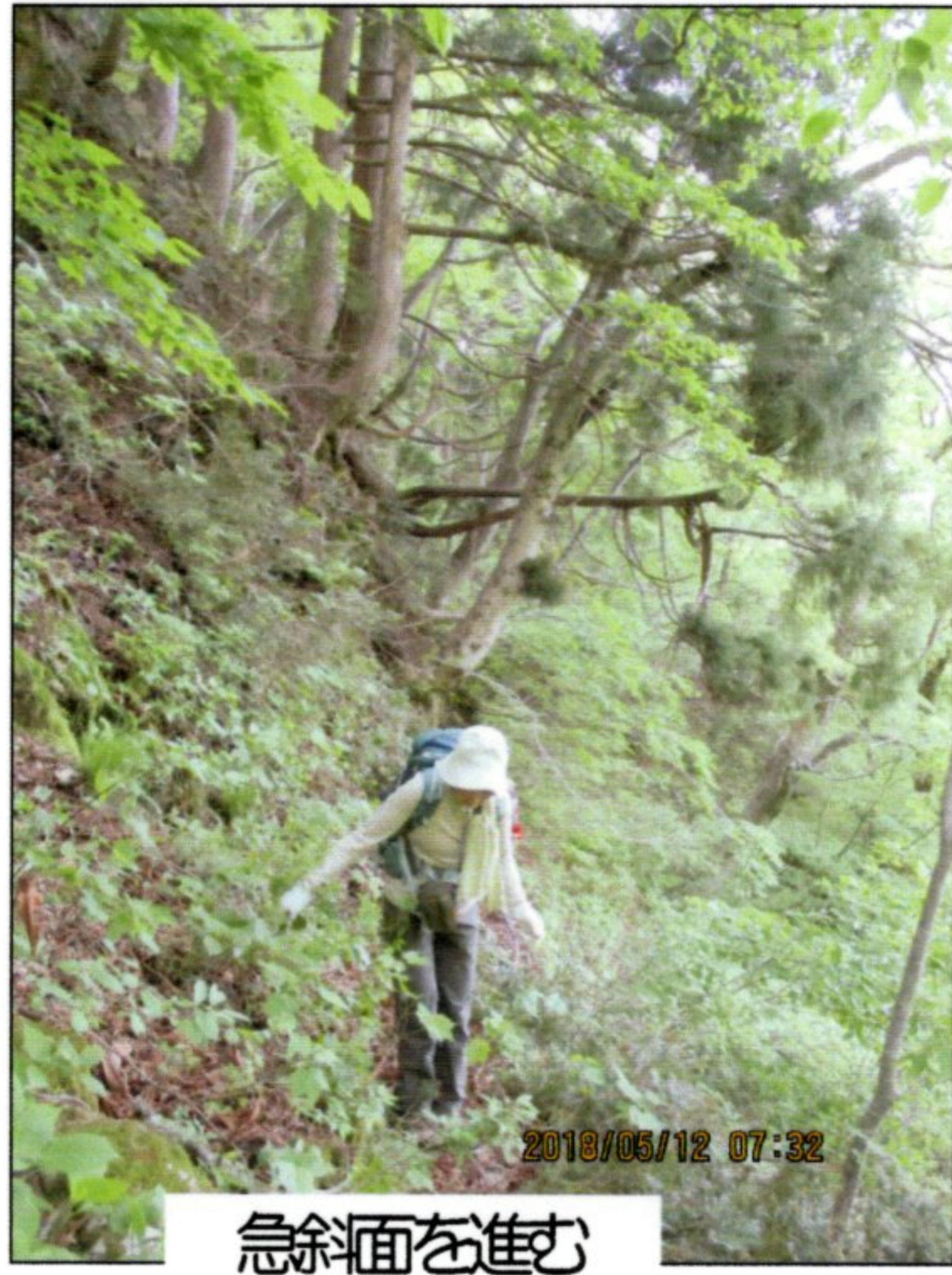
作業道の広場に車を止め、五分程作業道を上がり、終点から山道に取り付く。作業道終点には、車が一台置いてある。「山菜採りだろうか？」と話しながら、山道を進む。

山道は、通行量が少ないのか、あまり手入れがされていない。倒木や小柴が多く、少し鉋で切り払いながら歩く。

宮本さんが「これは何の花かな？」とJUNCOの、



谷沿いに進み、小さな沢を横切り、しばらく進むと、林道に出る。林道を進むと、右手の法面下にヒメコマツの



急斜面を進む

かる。「ここには昨年とても綺麗なヒトリシズカが咲いていたのだが！」と思いつながら、付近を見渡すと、既に花が終わっているものを見つける。急な斜面には、ロープが取り付けられているので、ロープにつかまり上り切る。



ヒトリシズカ



シヨウモンカスラ

花に目をやるシヨウモンカスラの花だった。道下にトチノキの大木を見ながら、しばらく進むと、足場の悪い急な斜面にか

今年は、昨年やってきた時より遅いので、雪解けが早いこともあり、昨年よりたくさんの花が見ることができると、白っぽくなっている。岩本さんもこの花にカメラを向ける。次に花が棒状に着くウワミズザクラの白い花がある。「この実は、果実酒にします」と話す。トチノキの新芽が



杉の木の手前がヒメコマツ

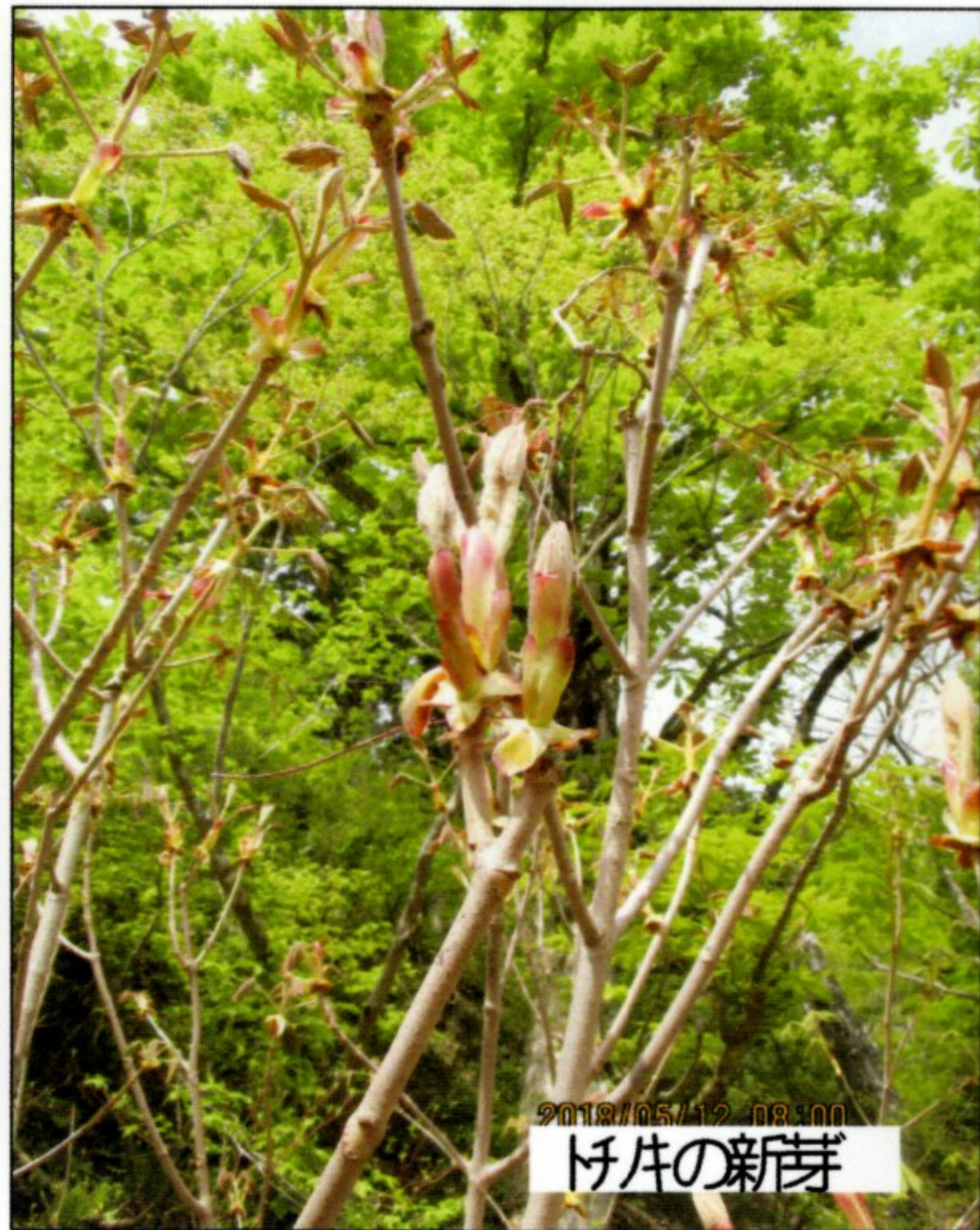
幼木が数本ある。しばらく進むと、右手にスギの木と並んで、ヒメコマツの大木があったので、写真に収める。



②山道から林道へ出る一行



ミカダミ



トチノキの新芽

カメラに収める。トチノキの新芽は、粘着性があり、光つていませす。特徴を離す。次にガマズミの白い花が房状に咲いている



ウツギザクラ



ウツギザクラ

出て、軸が立ち上がり、葉が展開する寸前の状態のもの、このあたり見ると、かなり見たので、



採取した山菜

「今、そこから」今、そこから

る。しばらく進むと、右手に地層が幾重にも重なった状況が見られる法面の箇所には差し掛かる。「これは、昔、堆積した地層が隆起したものでしょうね！」とみんなで自然のスケールの大きさを実感した。恐竜の化石やシダ類の化石が見つかる手取層は、大昔、日本が大陸と陸続きだったとされ、手取湖があったとも言われる。今では、山の上に玉砂利があるなど、その地層が現れている。



右手に地層が露出



桜枝



切花

このスギ林の上方に西岸さんの小屋がある。「もうすぐ小屋に着きますよー」と声を掛ける。
小屋には、九時一〇分に到着。今回は、早く帰らなければならなかったのだが、まだ、驚走ヶ岳まで行けるので、宮本さんが、「まだ、時間も十分ある



間伐され、明るくなったスギ林

ていいるところですよー!」とのこと。「それじゃ、小屋で逢いませう!」と会話をします。
広いスギ林にかかる。この辺は、間伐のための作業道があらうこちらに新設されている。昨年より明るい林になっている。林の中には、残雪が未だ残っている。



新緑が美しい山なみ

2018/05/12



驚走ヶ岳を目指し、残雪の林道を進む

ので、驚走ヶ岳まで行きませう!」と言われたので、「ここまで来たのだから驚走ヶ岳に行きたい」と思っていたので、願いが叶う。
リュックと採取した山菜を小屋の横に置き、今度は、驚走ヶ岳を目指す。

な!」と宮本さんが言うので、「二〇



④林道から登山道に入る

2018/05/12



残雪の上に立つ伴藤さん

2018/05/12

見晴らしの良い場所では、小松市側の山なみが新緑で美しい。
雪がたくさん残る場所を過ぎると、右手に驚走ヶ岳への登山道が見える。九時五五分頃登山口着。



切花

ほとんど雪はなかったが、最後の急な登りの手前の緩斜面には、雪がたくさん残っている。この辺りに、コシアブラの倒木があり、

ドームが見える箇所展望を楽しむ。更に進み、足元にはイワウチワ(日本海側はトクワカソウ)の薄いピンクの可愛い花が咲き、真っ白なタムシバの花がバックの青空に映えている。
登山道には、



2018/05/12



分もあれば着くんじゃないですか?」と返す。
登山道付近からは、山頂横に立つ北陸電力の放射板が見える。
天然の大きなスギが所々にあり、途中、小松

新芽をたくさんつけていたので、岩本夫妻、津田さんが採取する。
最後の急な登りを上がり切ると、マイクロウエープ反射板に辿り着き、すぐに山頂に着く。山頂には、十時一〇分到着する。
昨年は、ここで金沢から来た方が、一人でビールを飲み、景色を満喫していたことを思い出す。
今回も正面に大笠山、右手に白山、赤兎山方面、左手に奈良岳が谷筋に雪を残し、綺麗な景色を見せてくれる。ここで、伴藤カメラマンの提案で記念



2018/05/12
残雪の多し 緩斜面



2018/05/12
青空に映えるタムシバ



⑤山頂からの眺めを楽しむ



白山

2018/05/12

撮影となる。
この眺めを見るのが楽しみでやってきたので、これで満足した。今回は、小泉さんは足をくじいていて、林道からの登山道は、登らないことになり、林道で待つていただくこととなる。
しばらく山頂からの景色を満喫して、九時二〇分頃には下山開始。一〇分くらいで林道に出る。ここで、小泉さんは先に下山開始。残りの参加者は、山菜取りをしながら小屋を目指す。



奈良岳

大笠山

2018/05/12

奥さんとは逢ってなかったので、残念だったが仕方がない。
話を切る。
奥さんとは逢ってなかったので、残念だったが仕方がない。

素麺をゆでている間、西岸さんに携帯で電話をすると、「林道の途中に雪がたくさんあって、小屋までいけませんのでした」とのこと。「お逢い出来るの楽しみにしていたのに残念です。また、今度お逢いしましょう！今からここで素麺を食べます。」と伝えて、電話を切る。

私も登山口で預かった素麺つゆをリュックから取り出し、伴藤さんに渡す。西口さんの小屋の前には、冷たい伏流水があるので、素麺を食べるにはもってこいの所だ。「ここで、素麺流しやるというよねー」「この水おいしいねー」の声が出る。

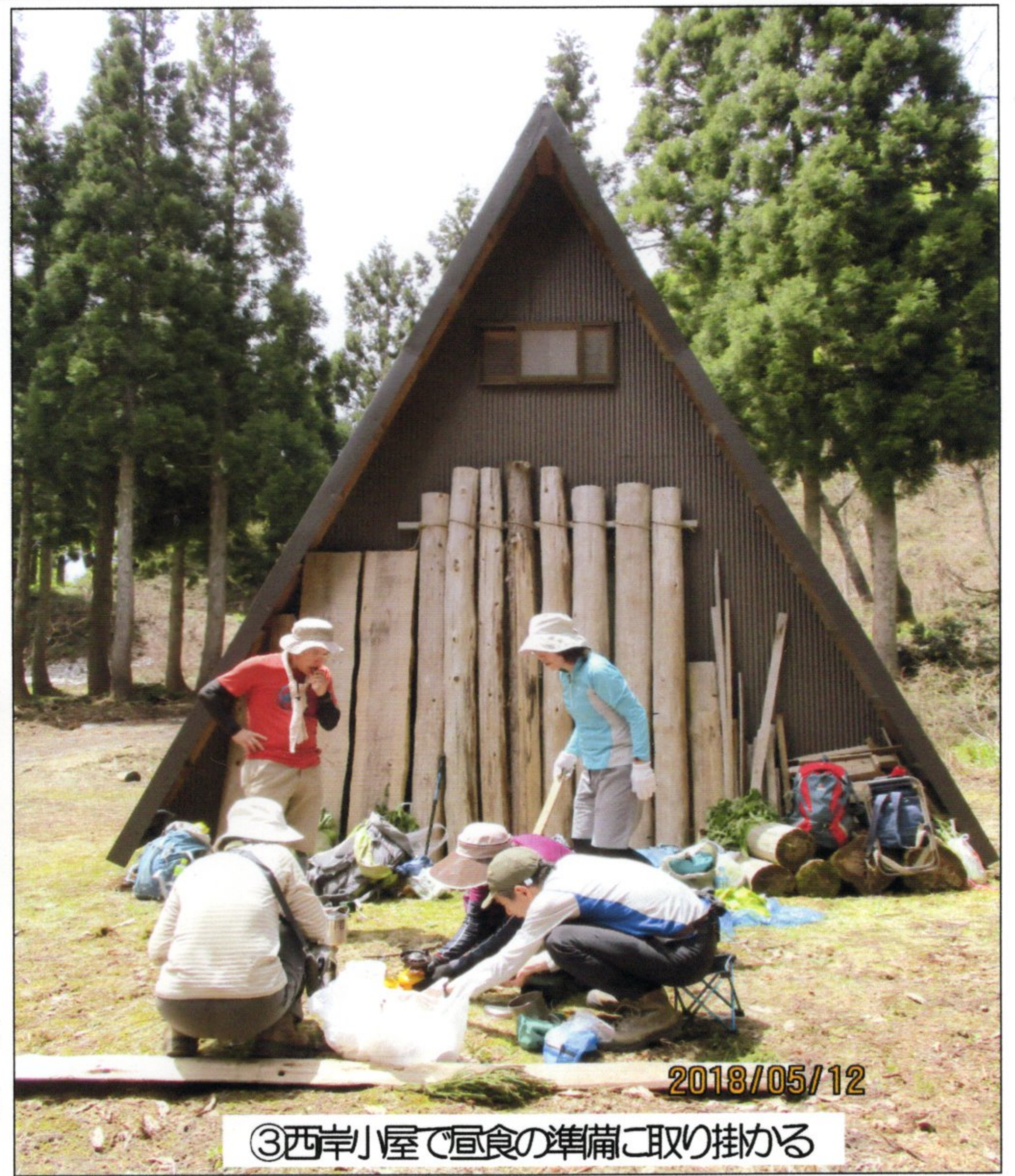
宮本さん達が先に荷を下ろして休んでいる。みんなが揃ったところで、伴藤コック長の采配が始まる。「今日は素麺です」とのこと、リュックから鍋や携帯コントなどを取り出し、素麺をゆでる準備にかかる。
先に失礼して先に進む。次の林道分岐点を左に折れるとカーブ曲がると、すぐに西岸さんの小屋が見えてくる。



ヤマギヤの花



物知り



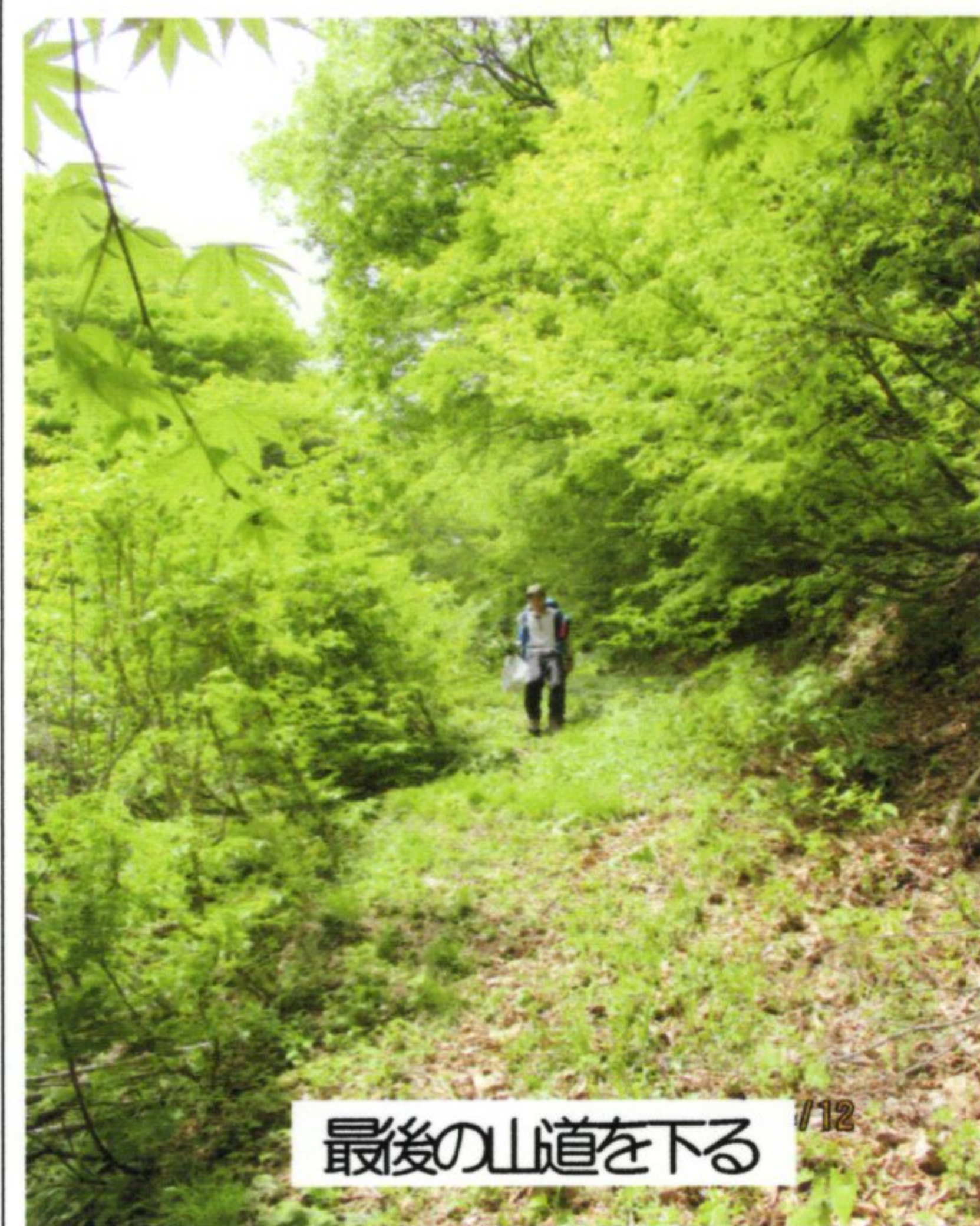
③西岸小屋で昼食の準備に取り掛かる



素麺を鍋に入れる伴藤さん(左)

「こい。しっかりと素麺を食べ、持参のお弁当もおにぎり一個とおかずだけ食べて、おにぎり二個は残すことになる。昼食を終えると後片付けを済ませて十二時頃小屋を後にする。小泉さんは、先行して下山

手際よく素麺が茹で上がったところで、伴藤さんが「鍋もって水のところまで持って来よう」と津田さん、岩本さんをお願いする。おいしいそんな素麺が出来上がる。伴藤さんにお椀と箸をいただき、冷たい水に麺つゆを注ぎ、チューブのわさびを少し入れ、素麺を食する。日当たりのいい暖かな日差しの中の素麺は、格別



最後の山道を下る



ウツギの花

「こんな所では、歩道の入口がわかりにくい。登った時に何か標示をしておかないといけない」と思う。朝出会った男の人も道を間違えたようで、引き返してくる。私たちより先まで下りていたのだろう。最後の山道を一五

する。残り六人でゆっくり新緑を楽しみながら下山。調子よく、話をしながら賑やかに下山していったら、宮本さんが「行き過ぎたんじゃないか?」と言う。「そういえば、路面が悪いし、こんな所歩いて上がってない」と思う。すぐ、地図で確かめて、林道を引き返し、下山する歩道入口を探す。



①小泉さんの待つ車に到着、運転ご苦労様です。

分くらい下り、作業道終点に到着。ブナ林の中を通過して、小泉さんが待つ車の所に無事到着する。最後に思いがけないアクシデントがあったが、楽しい一日だった。



作業道終点に出る